

平成25年度 長岡市防災アンケート 集計結果

アンケート実施期間

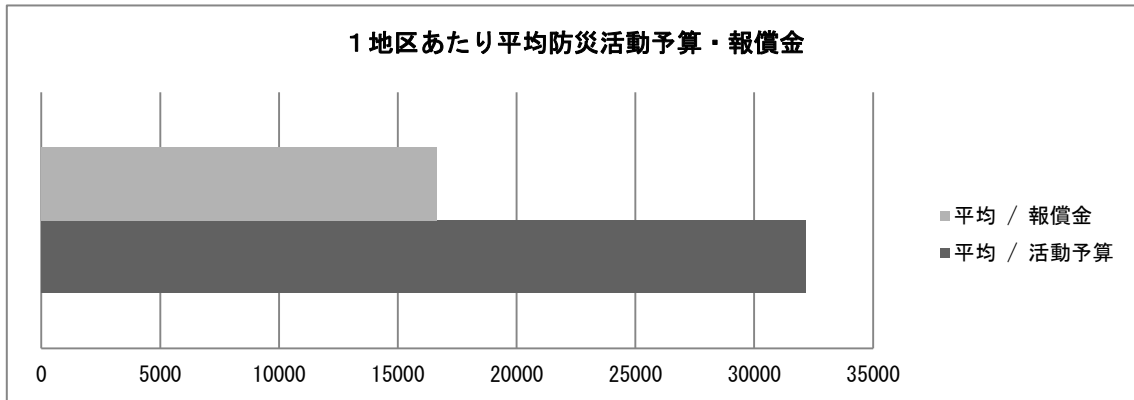
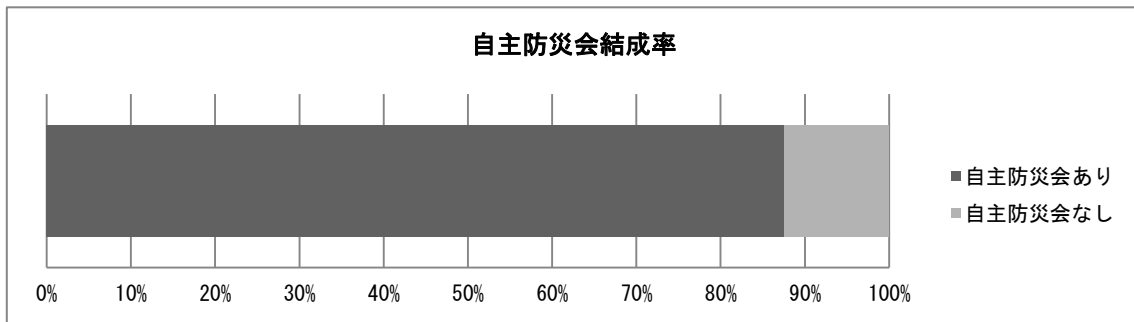
平成25年11月8日～11月25日

回収率

75% (回収 695 通 / 発送 929 通)

アンケート実施結果

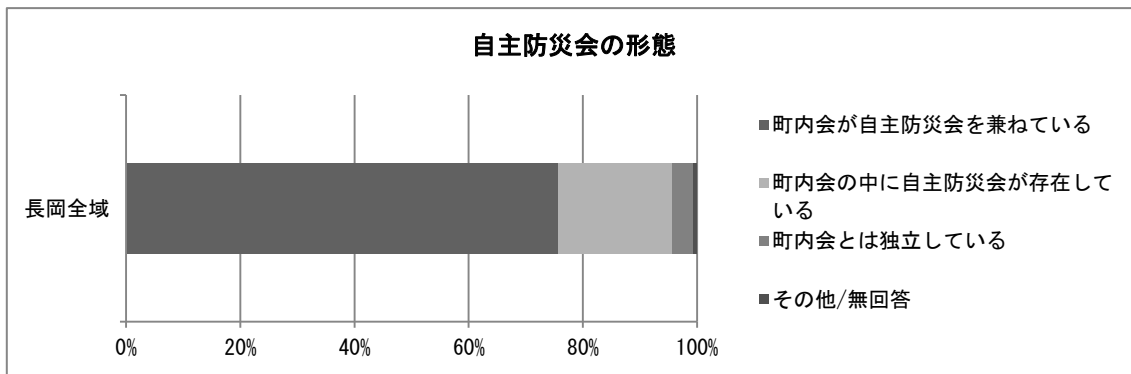
問1. あなたの自主防災会または町内会の状況をご記入ください。



- 自主防災会結成率は、今回のアンケート回収結果では90%弱。
- 防災活動予算の中で報償金の占める割合は約50%程度。ただし、小集落が多い地域では活動予算の内、報償金の占める割合が高く、報償金が重要な活動資金になっていることがうかがえる。

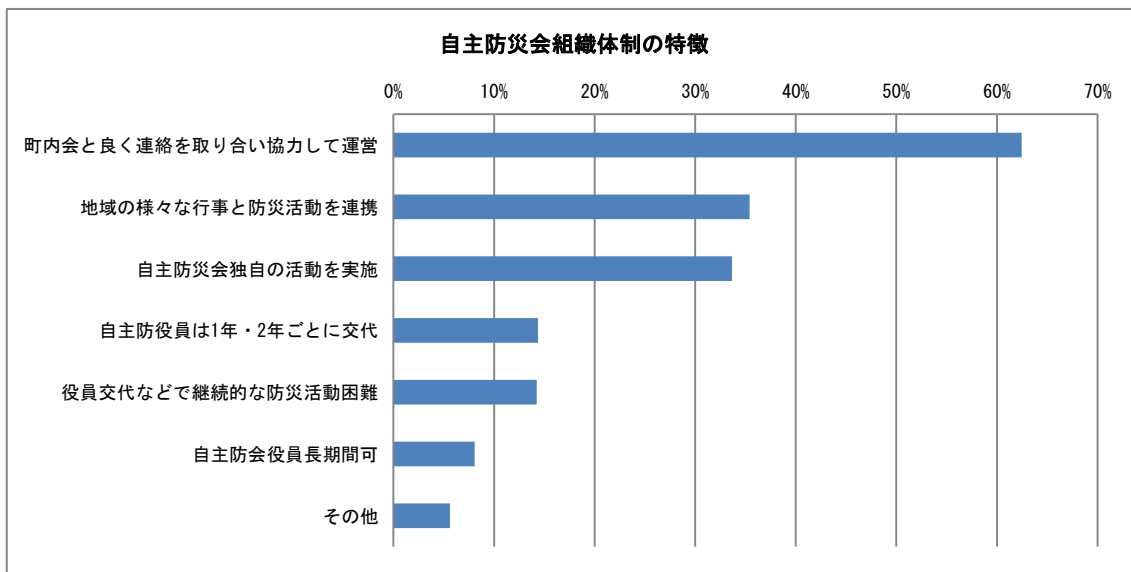
問2. 問1で自主防災会が「有り」と回答した方にお聞きします。

補1 自主防災会の組織体制についてご回答ください（1つに○印）。



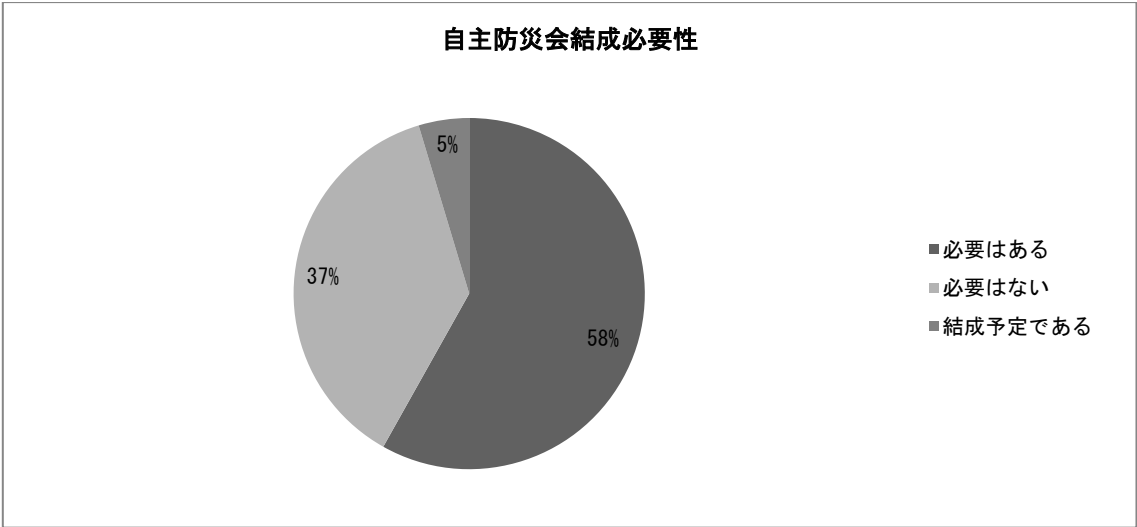
- 町内会が自主防災会を兼ねている形が全体的に最も多い。
- 町内会の中に自主防災会が存在している、もしくは町内会とは独立している町内について、活動内容等にどのような差異が出ているかは引き続き検討を行う。

補2 組織体制の特徴についてご回答ください（いくつでも○印）。

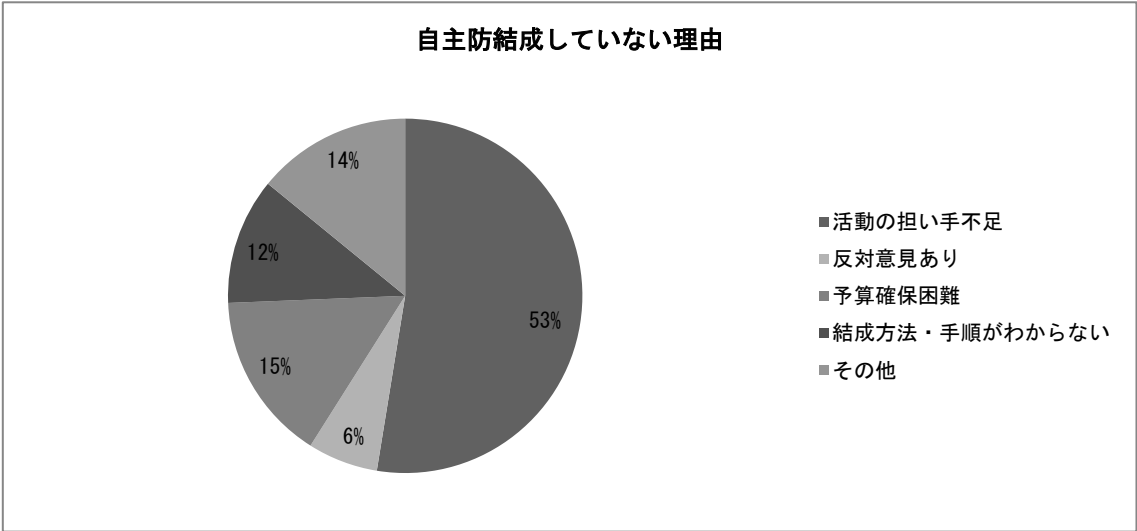


- 町内会が自主防災会を兼ねている防災会が多いためか、町内会と自主防災会の連携が取れている地域が非常に多い。
- 地域行事と防災活動が連携しているケースは全体の30%程度であるが、地域行事をアレンジすることで少ない労力で立派な防災活動になる可能性を秘めている。
- 役員交代が自主防災活動のデメリットと感じている地域は、それほど多くないようである。

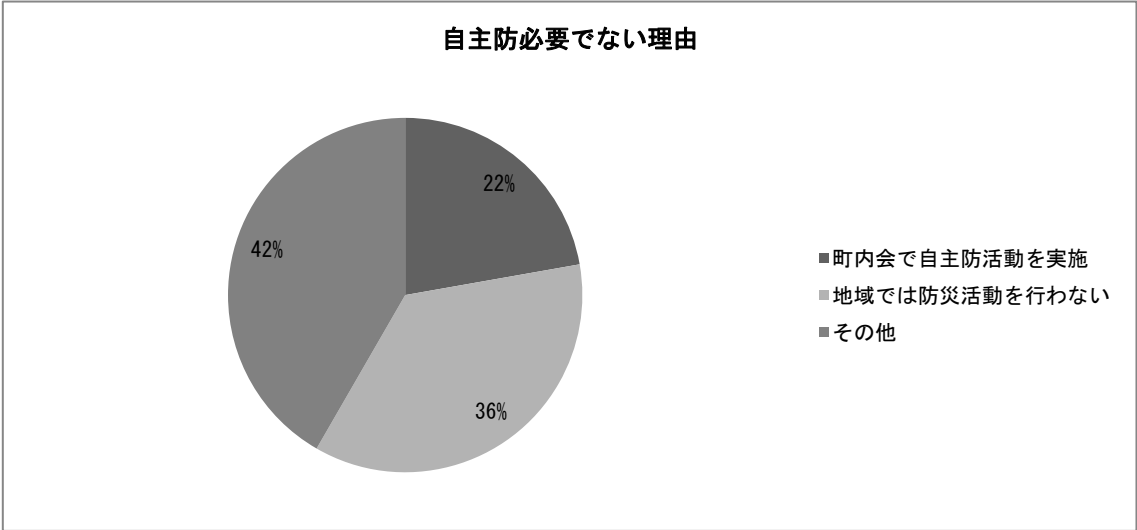
問3. 問1で自主防災会が「無し」と回答した方にお聞きします。自主防災会を結成する必要はあると思いますか？（1つに○印）



必要あり→◇自主防災会を結成していない理由は何ですか？

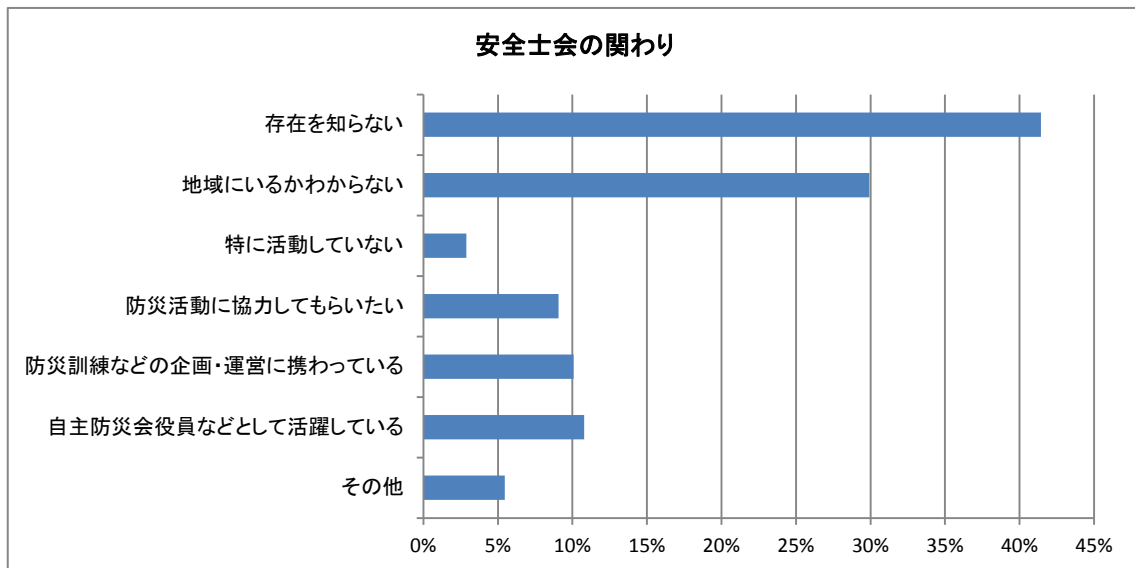


必要なし→◇その理由は何ですか？



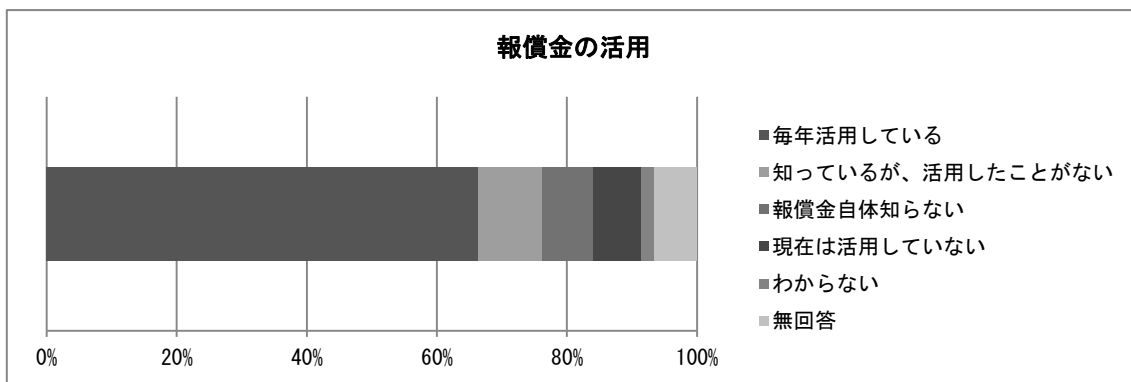
- 自主防災会が必要でも結成出来ない理由としては、活動の担い手不足が最大の原因である。また、地域で反対意見があるという回答は少なかったものの、理由記述欄からは無関心層の多さを危惧する声が見受けられ、自主防災活動への積極的な協力者の少なさがネックになっていると考えられる。
- 自主防災会を結成しない理由としてはネガティブな面が多いが、町内会のままでも問題ないというようにポジティブに捉えている地域もある。
- 自主防災会自体を必要でない理由としては、地域において防災活動を全く必要ないと認識している地域もあり、こういった地域には啓蒙が必要と考えられる。但し、防災活動をしていなくても地域コミュニティがしっかりしている地域があるとも考えられるため、一概に防災力が低いとは言い切れない。
- 自主防災活動が単独組織で出来ない地域では、周辺地域と連合・合同で防災活動を行っている地域もあり、新たな自主防災活動の形として検討の価値がある。

問4. あなたの地域の防災活動における中越市民防災安全士（以下、「安全士」）の関わり方についてご回答ください。（いくつでも○印）



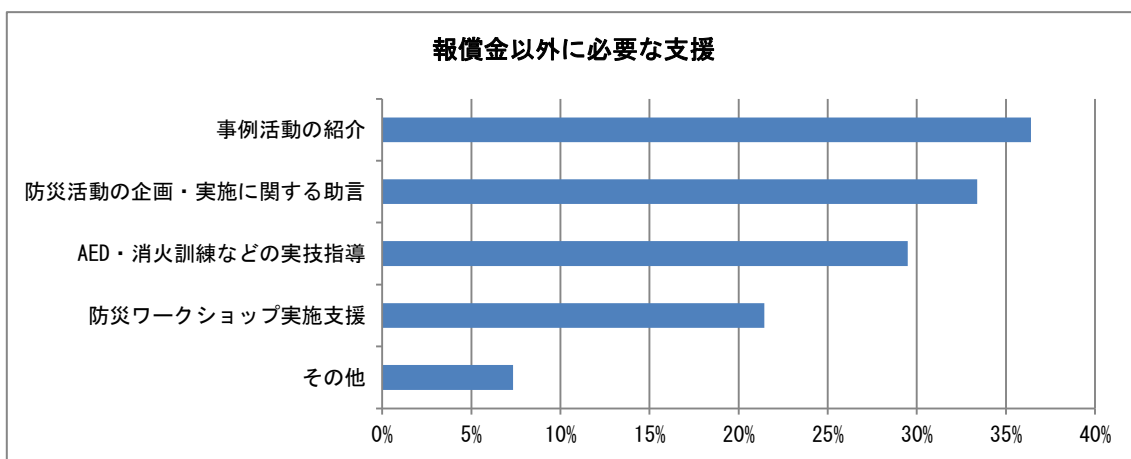
- 全体の約4割の地域において安全士の存在自体が知られていない他、約3割の地域に安全士がいないなど、安全士の認知度や地域活動への関わりはまだまだ高くないのが実情である。
- 地域で安全士が役員を担ったり防災活動に協力しているケースは全体の1割程度(約70地域)であるが、これまで安全大学を卒業した約400名の安全士の内、約18%の方々が地域で活躍していることになる。
- 安全大学や安全士会の活動のPRの他、積極的な安全士に対するフォローも必要であると考えられる。

問5. あなたの地域では、防災訓練を実施・報告した際に長岡市から支払われる報償金を活用していますか。(1つに○印) また、その理由についてもお答えください。



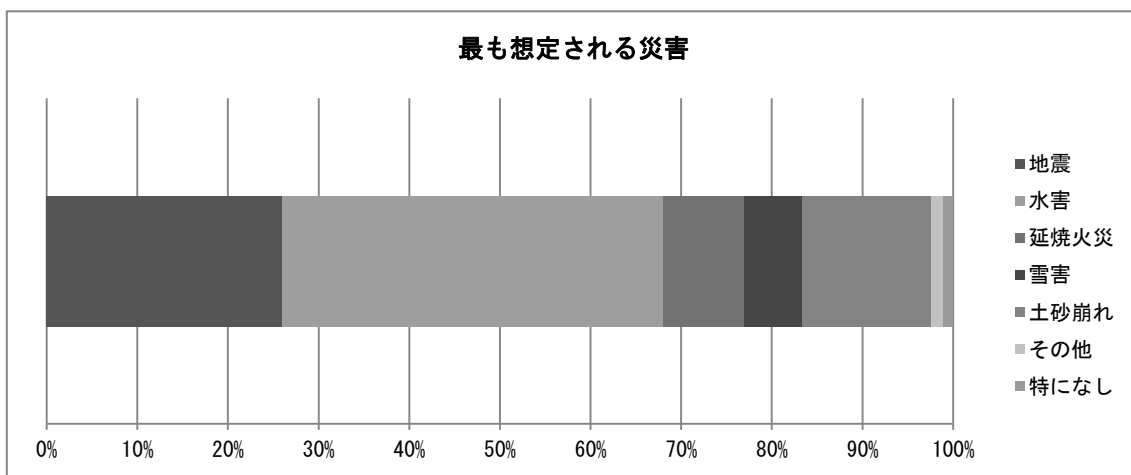
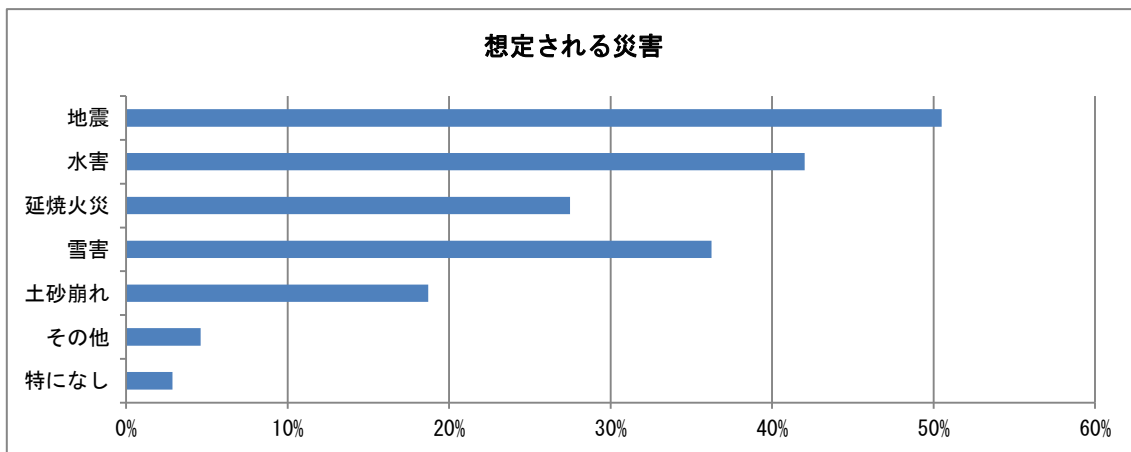
- 全体の6割強の地域が報償金を活用しており、多くの地域で防災活動に利用されているが、町内の一般会計に繰り入れて使用している地域も少なくなく、中には地域の貴重な財源となっているケースもある。
- 報償金の使途に縛りがないため、地域にとっては良い意味で使い勝手の良いお金となっている。
- 報償金を申請していない理由としては、防災活動をしていない、自主防災会がないなどの理由が多く挙げられている。

問6. 報償金のほかにあったら良いと思われる自主防災活動への支援は何ですか？ (いくつでも○印)



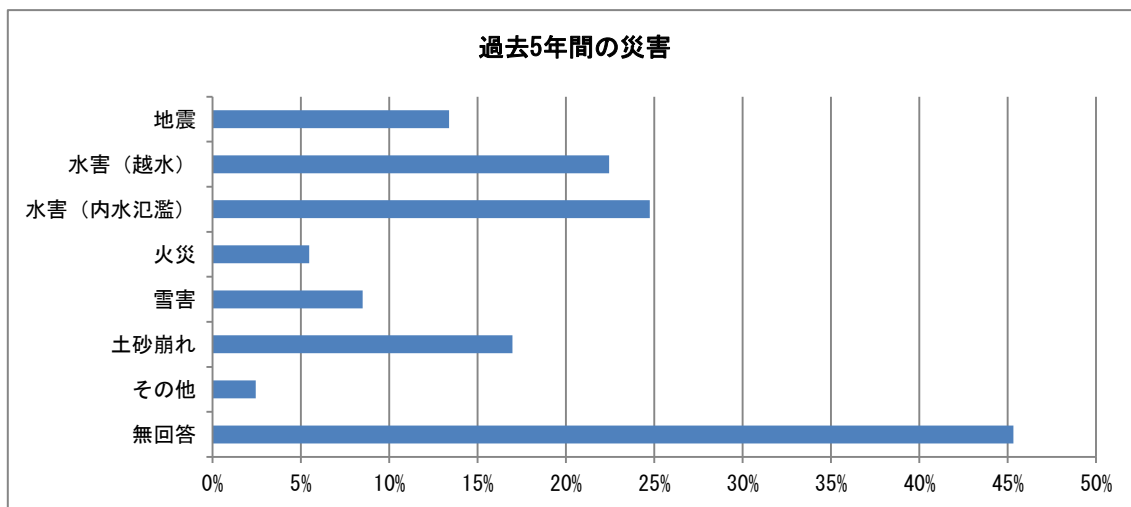
- 防災活動の事例紹介や防災活動の企画・運営にアドバイスを必要としている地域が多く、根本的に防災活動をどのようにして行ったら良いか悩みを抱えている地域が多いと思われる。
- AED や消火活動訓練などの体験型防災訓練を実施する上での支援も多く望まれている。

問7. あなたの地域で発生の可能性のある災害は何ですか？ 最も想定されるもの1つに◎印、そのほか想定されるものすべてに○印をつけてください。



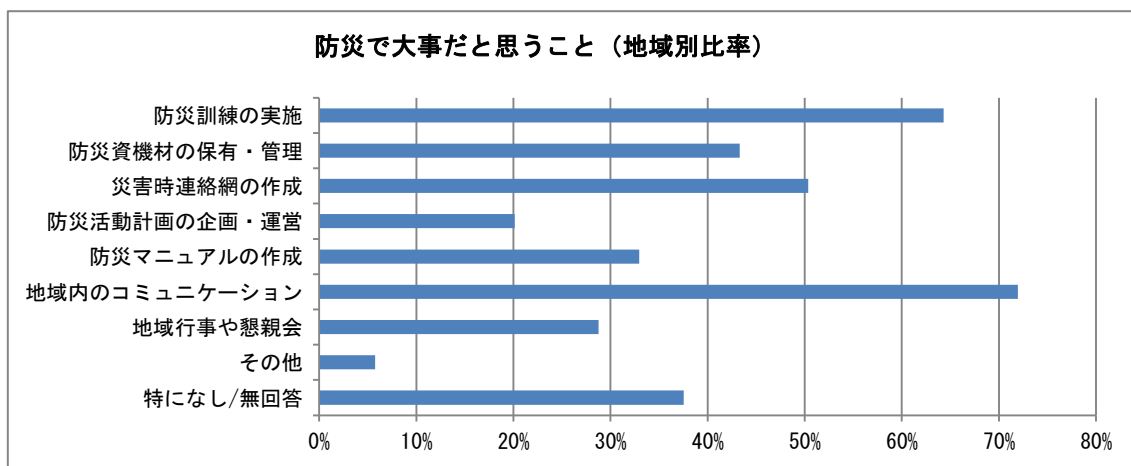
- 全体的に想定される災害としては地震が最も高く 50%を超えているが、最も想定される災害については、水害が多く。水害に危機感を覚えている地域が多いことがうかがえる。
- また、地域別にみると各地域で最も災害想定される災害（寺泊；津波、中之島・栃尾；水害、山古志・小国・栃尾；雪害）が違うなど災害にも地域性が現れており、地域に合った対応が必要であると考えられる。

問 8. 過去5年以内にあなたの地域で実際に起こった災害は何ですか？（いくつでも○印）また、その際に地域で実際にどのような対応を取りましたか？



- 過去5年間の災害経験では、圧倒的に水害や土砂災害の対応が多い。旧長岡市内では要援護者対応、土のう作り、石灰配布、山間部などでは加えて重機を使った復旧作業などの住民主体の数多くの対応がなされていることがわかる。特に過去に同様の災害があった地域では同種の災害への対応能力は極めて高いのではないかと考えられる。
⇒水害地域などでは防災マップ事業などを行うことで自分の地域の危険な場所や避難経路の確認・共有につながり、さらに防災力をあげるにつながると思われる。
- 過去5年間の災害対応で地震の回答がみられるが、中越地震や中越沖地震など、5年以上前の災害がカウントされていると思われる。

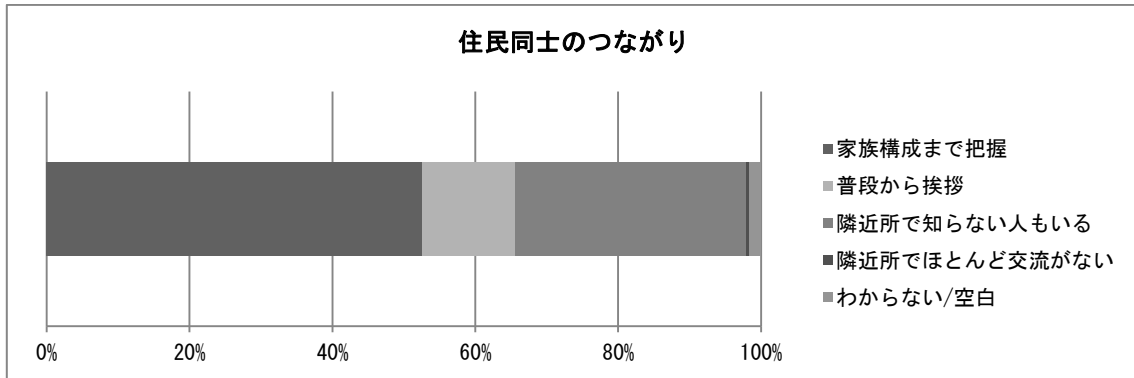
問 9. 地域の防災において大事だと思うことは何ですか。（いくつでも○印）



- 防災上、地域内のコミュニケーションが大切だという認識は長岡市全体で70%と総じて高い。しかしながら、地域行事や懇親会については30%と低く、コミュニケーションが大切と言いつつも、両者がリンクしていないことがうかがえる。

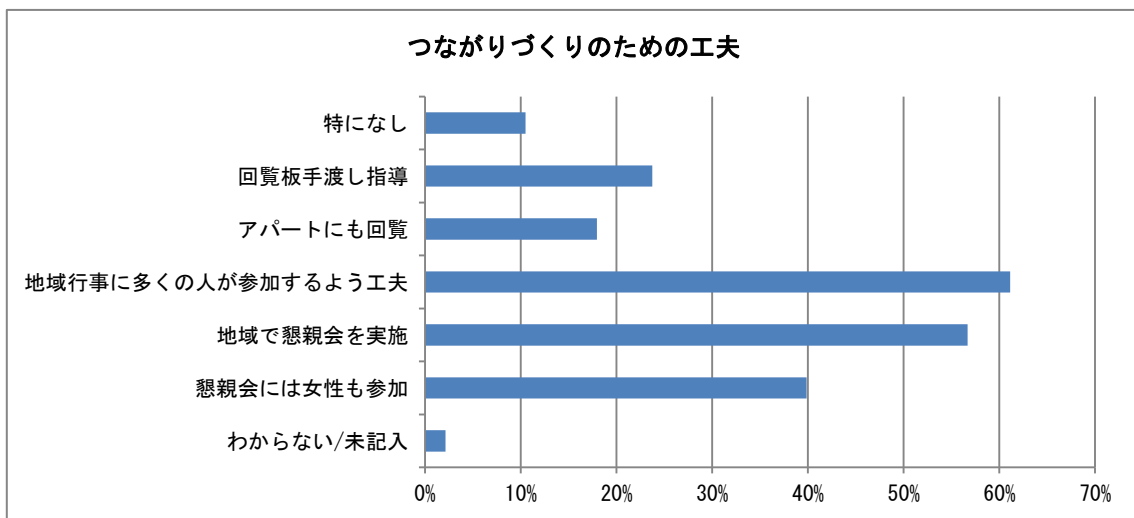
- 防災訓練が大切であるという認識は高いものの、地域行事や懇親会についての認識が高くないことから地域行事などと防災訓練を切り分けて考える傾向があると考えられる。
- 防災訓練や防災資機材の保有などの実際の活動につながる項目の認識は比較的高いが、防災活動計画の企画・運営や防災マニュアルの作成といった、その前段階の計画に対する認識は高くない。

問10. あなたの地域における住民どうしのつながりはどのような状況ですか？（最もあてはまるもの1つに○印）



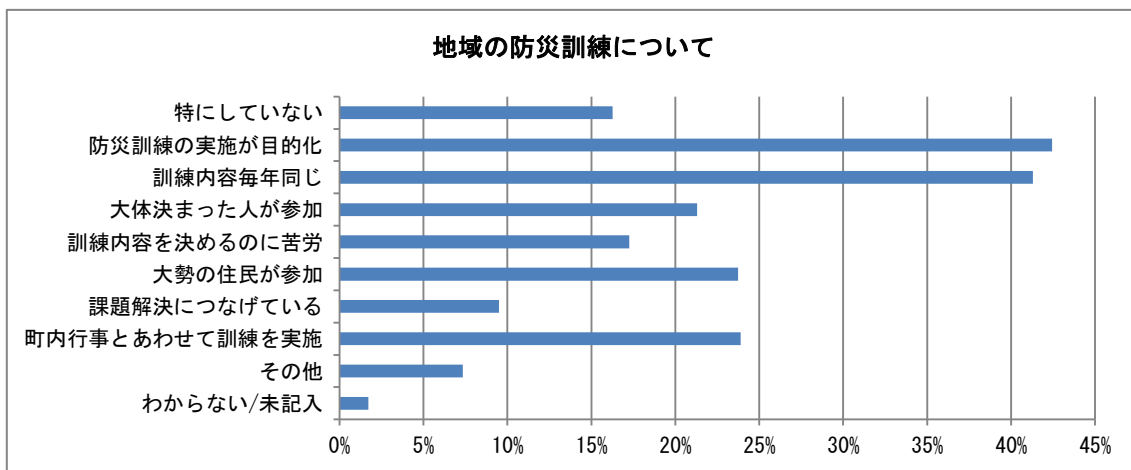
- 家族構成まで把握している地域は全体の50%を超えるが、一方で隣近所で知らない人もいるという地域も全体の40%を占める。しかしながら、隣近所でほとんど交流がないという地域はその中でもごく少数である。
- 支所地域では、地域内で家族構成まで把握していたり、普段から挨拶している割合が極めて高く、住民同士のつながりが非常に強い。
- 旧長岡地域では家族構成まで把握しているや普段から挨拶をしている地域を合わせても全体の50%と街場と周辺地域で傾向が分かれていると考えられる。

問11. 災害時に住民どうしで助け合うためには、普段から人と人とのつながりが大切です。そのつながりを作るために何か工夫をしていますか？（いくつでも○印）



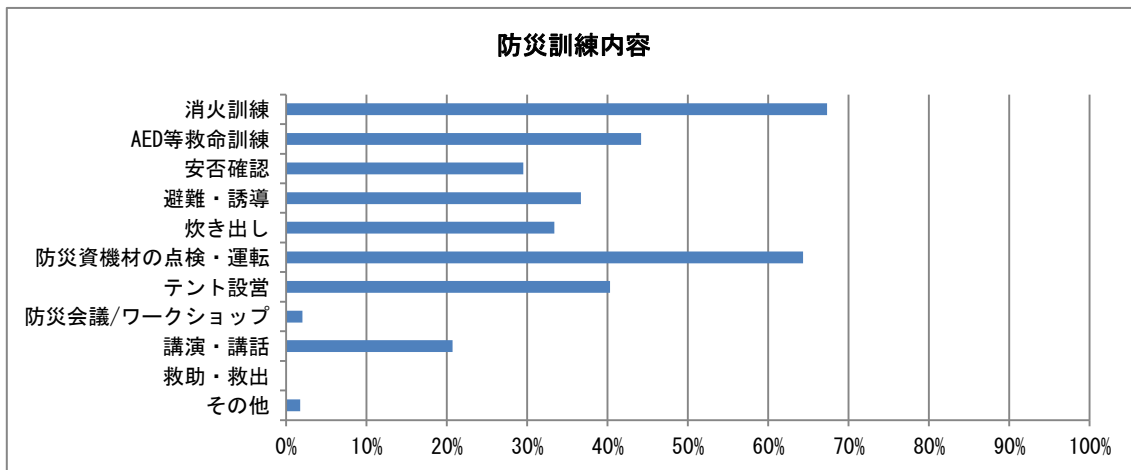
- 回覧板をつなぎづくりのツールとして意識的に使っている地域はあまり多くない。
- 地域行事に多くの人が参加するように工夫をしている地域や懇親会を実施している地域は全体の約 60%に達している。しかし、前問の回答からもうかがえるようにこれらの地域活動と防災活動がうまくリンクしていない可能性がある。

問 1 2. あなたの地域の防災訓練についてご回答ください。(いくつでも○印)



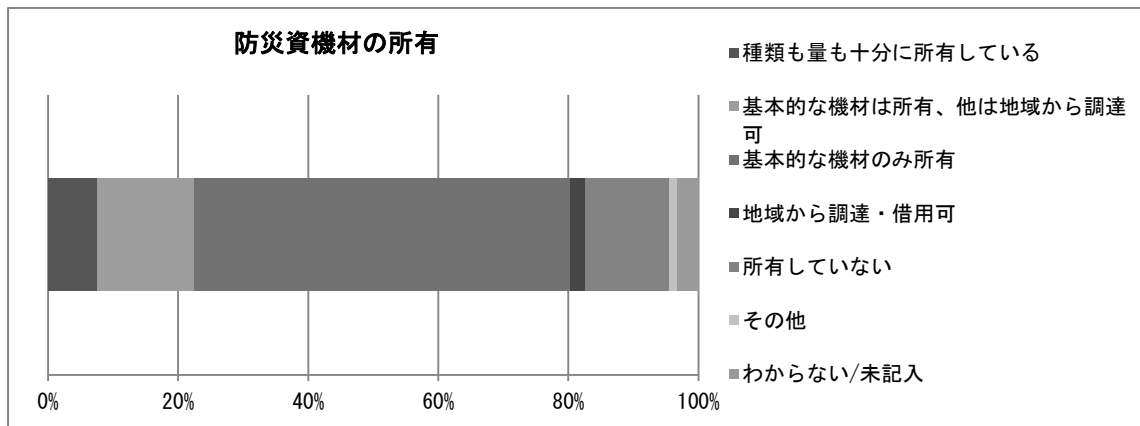
- 防災訓練の実施可自体が目的化するなど、防災訓練の実施内容に悩んでいる地域が多いことが見受けられるが、一方で、訓練を地域の課題解決に結び付けている地域も見られることから、こういった地域の状況を調査し、その成果を広く展開するような仕掛けも必要である。
- 他地域と合同で防災訓練を実施している地域も多い(自由記述欄より)。高齢化が進んで一地区だけでは訓練等の防災活動の実施が難しい地域もあることから、今後、合同で活動を実施している地域の事例などを拾い、好事例についてはこのような事例発表会の中で取り上げていく必要がある。また、同様に地域にある高齢者施設などと連携して防災訓練をとりおこなっている事例もあり、こういった事例についても調査していく必要がある。

問 1 3. 防災訓練ではどのような内容を実施したことがありますか？(いくつでも○印)



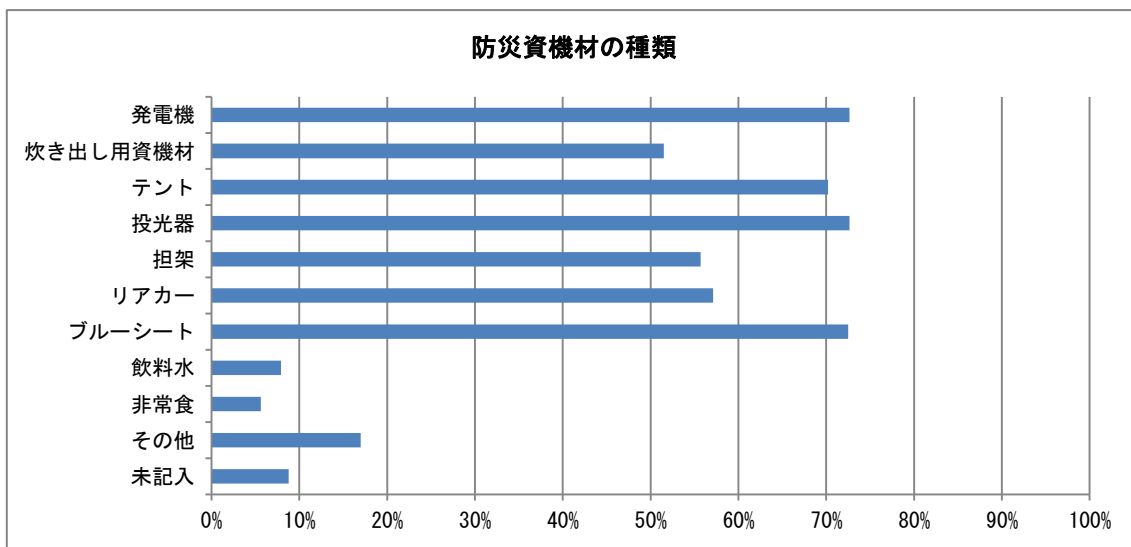
- 防災訓練の内容については、防災訓練として定番の消火訓練、防災資機材の運転、点検といった内容が高い比率を占めている。
- これに次いで AED や炊き出しの他、ロープワークや簡易担架づくりなどの体験型のメニューが次に続いている。
- 安否確認や避難誘導については、従来の防災訓練でも決まりのように行われてきたこともあり、単純に実施比率を見るだけでなく、内容についても実践に有効な訓練かどうかを見る必要がある。
- 報償金以外に求められる支援としてワークショップは 20%程度の要望が上がっていたが、実際に実施したことのある町内はほとんどない。

問 1 4. あなたの地域では、防災資機材を所有していますか？（最もあてはまるもの 1 つに○印）



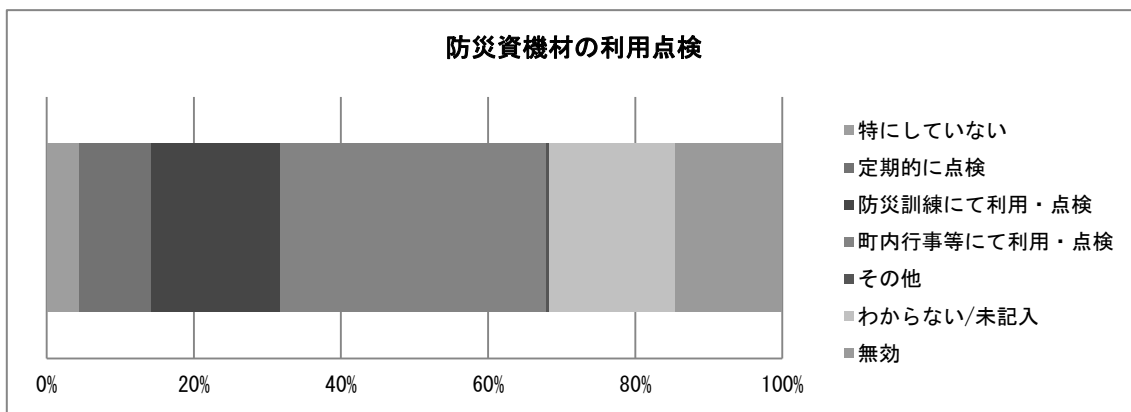
- 復興基金で防災資機材の購入資金の補助があったことから、約 8 割の地域において基本的な資機材は揃えられている。しかし、それに加えて、足りない資機材を地域から調達可能な地域はわずか 2 割強でしかない。
- 基本的な資機材はそろっている地域が多いが、自分たちの地域で災害が起こった時にどういった資機材が必要になるのかを把握している地域がどれだけあるのかは疑問である。

問 15. どのような防災資機材を所有していますか？（いくつでも○印）



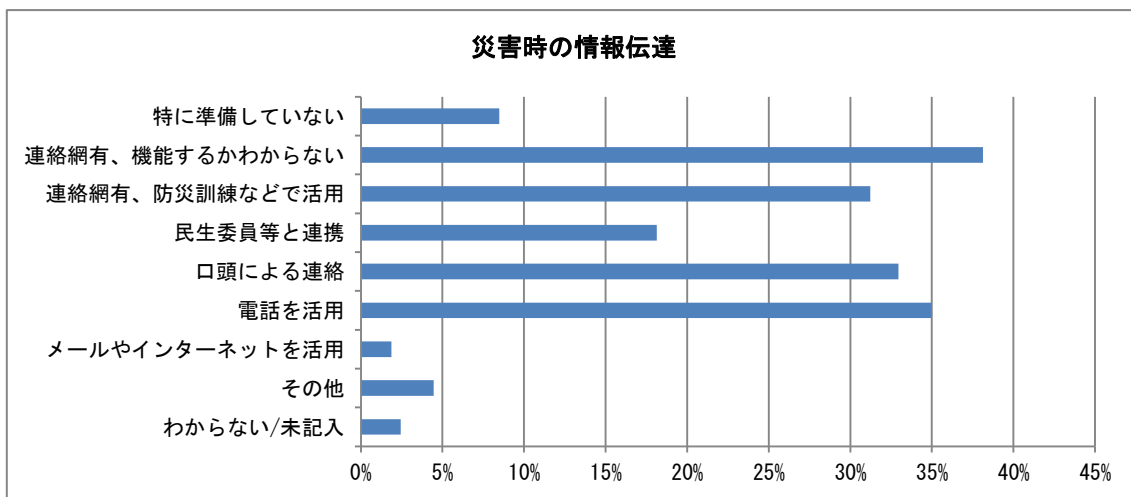
- 発電機、テント、投光器、ブルーシートと言った、基本的な資機材については全体的に非常に高い保有率になっている。
- その他の炊き出し用資機材や担架、リアカーといった資機材については、自主防災会によって保有の仕方に差がある。
- 飲料水・非常食については、自主防災会としての保有率は非常に低い。

問 16. 防災資機材をどのように利用・点検していますか？（最もあてはまるもの1つに○印）



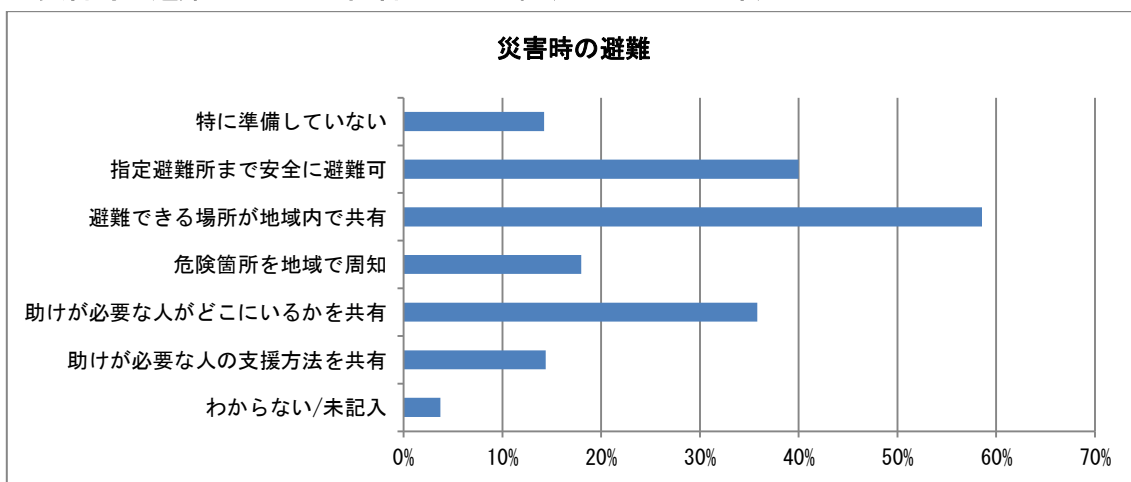
- 防災資機材を定期的に点検、もしくは防災訓練や町内行事の時に利用点検している地域は全体の6割強であり、多くの地域が防災活動の中で防災資機材の点検利用をしている。つまり、防災訓練と地域行事は意識的に結び付けて実施されていないが、実際に防災資機材が町内行事で多く活用されている。

問 17. 災害時の情報伝達についてご回答ください。(いくつでも○印)



- 連絡網があっても実際に機能するかわからない地域は全体の 40%にも上る。防災訓練などで実際に連絡網を用いている地域も少なくないが、そのうち、うまく機能しているところ事例について調査をする必要がある。
- 要援護者の支援を主に行っている民生委員との連携が取れている地域は全体の約 20%にとどまっている。自主防災会も民生委員も同様の課題を抱えていると思われるので、上手く協働できる体制づくりや活動事例の紹介などが出来ると良いと思われる。
- インターネットを情報伝達に使っている地域もわずかではあるが存在する。
- また無線やトランシーバーと言った通信手段を用いている地域もある。

問 18. 災害時の避難についてご回答ください。(いくつでも○印)

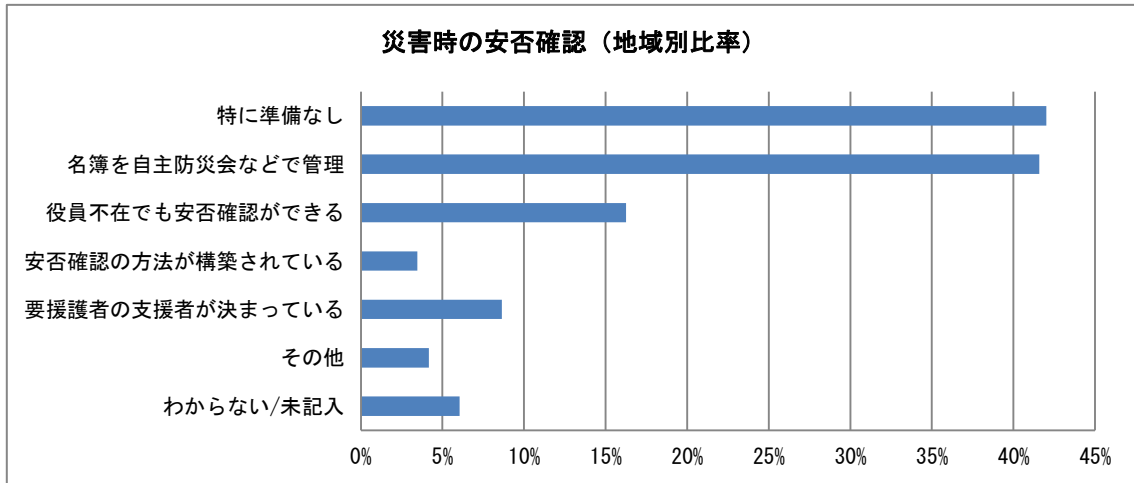


- 避難場所の共有は地域内で 60%にとどまっており、指定避難所まで安全に避難できるか、危険箇所がないかという点に関しては、さらに周知されていない状況である。
- 避難所については、行政に指定された避難所まで安全に行けないといった声も上がっていることから、地域ごとにどこに逃げるのが良いのかを検討することの必要性も地域に投げ

かける必要がある。

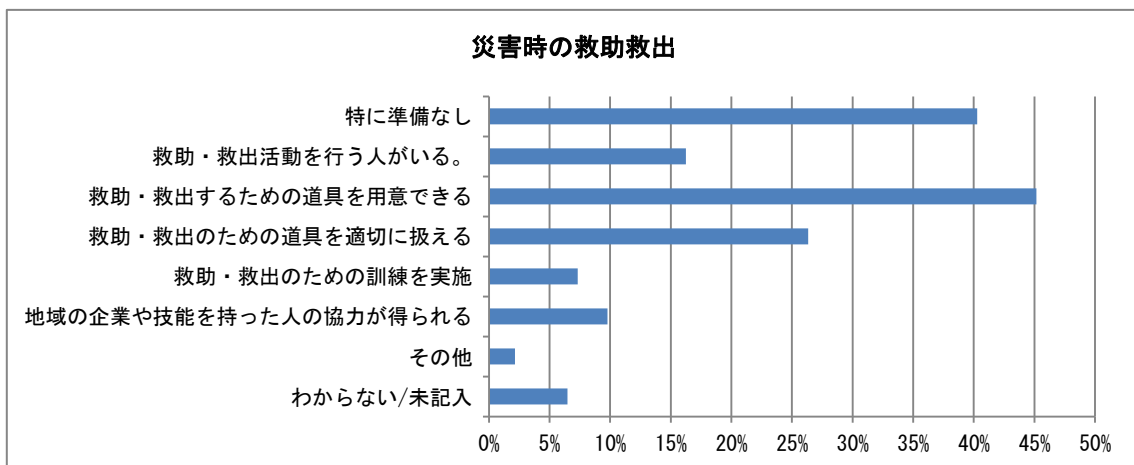
- 要援護者対策については、個人情報保護の問題がネックになっている部分もある。他地域での成功事例などを広く紹介することで、様々な対応の形があることも知ってもらう必要がある。

問 19. 災害時の安否確認についてご回答ください。(いくつでも○印)



- 特に準備をしていない地域が約 4 割に上る。
- 安否確認のための名簿の管理については全体の 4 割ほどの地域でなされているが、実際に安否確認体制が構築されている地域は 5%に満たない。ただし、集落などでは安否確認の体制が構築されていなくても、役員不在の状況でも安否確認を出来る割合が高い傾向があるように見受けられる。

問 20. 災害時の救助・救出活動についてご回答ください。(いくつでも○印)

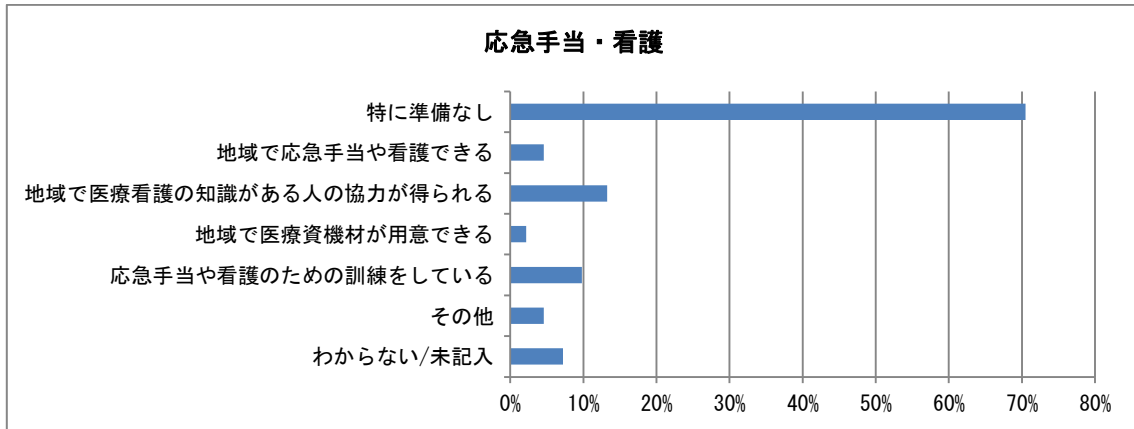


- 特に準備していない地域が約 4 割に上る
- 約半数の自主防災会で救助救出のための道具を所有しているが、その道具を適切に使える

のはその半分である。また、救助救出のための訓練を行っている地域は1割に満たない。

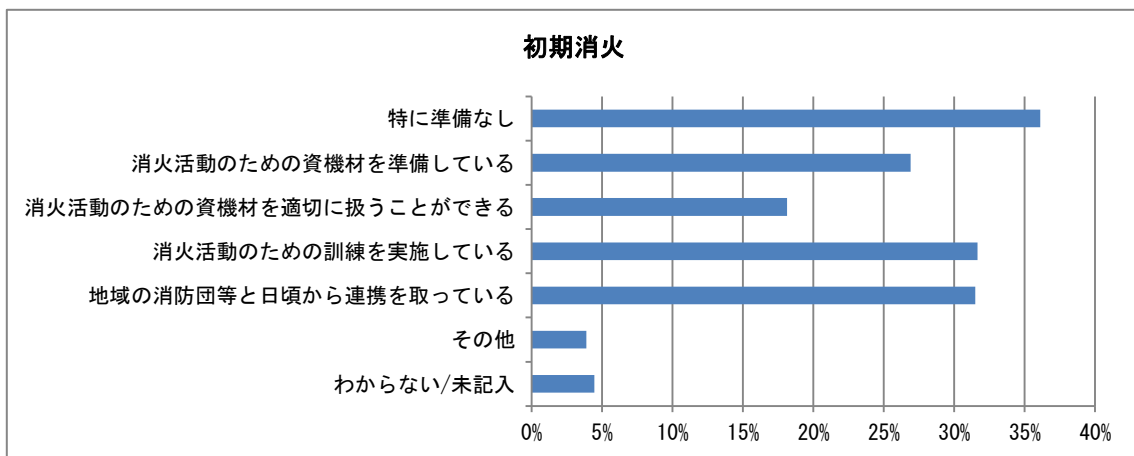
- 地域の企業や団体と連携している団体も約1割でしかない。
- 地域で災害時にどのような道具が必要になるのか、それらを実際に使える人がいるのか、ワークショップなどを通して検証をしておく必要がある。

問2 1. 災害時の病人やけが人の応急手当や看護についてご回答ください。(いくつでも○印)



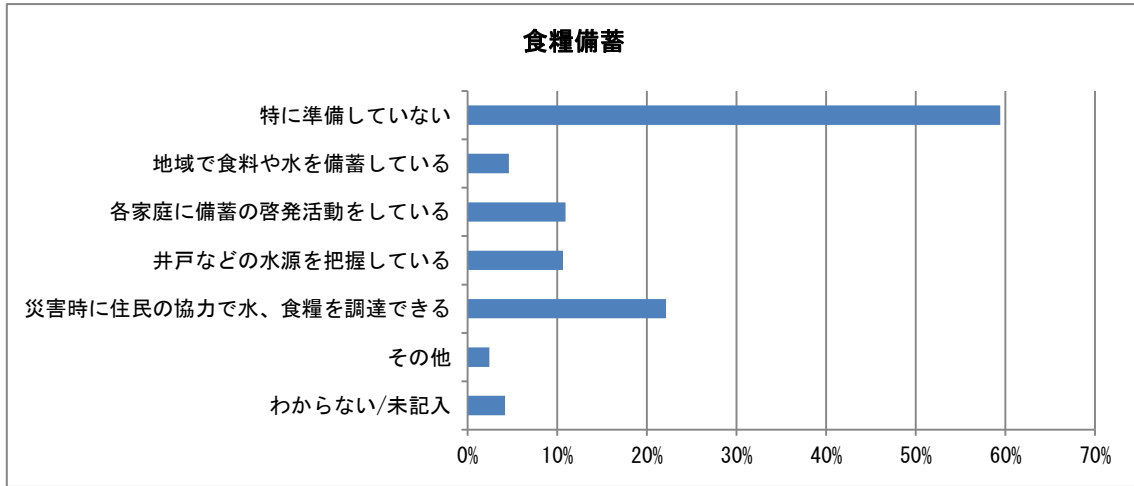
- 応急手当については、特に地域で準備していない地域が約7割に上る。
- 災害時には医療機関や消防に頼ることが難しくなることから、更なる啓発活動や訓練が必要である。

問2 2. 初期消火活動についてご回答ください。(いくつでも○印)



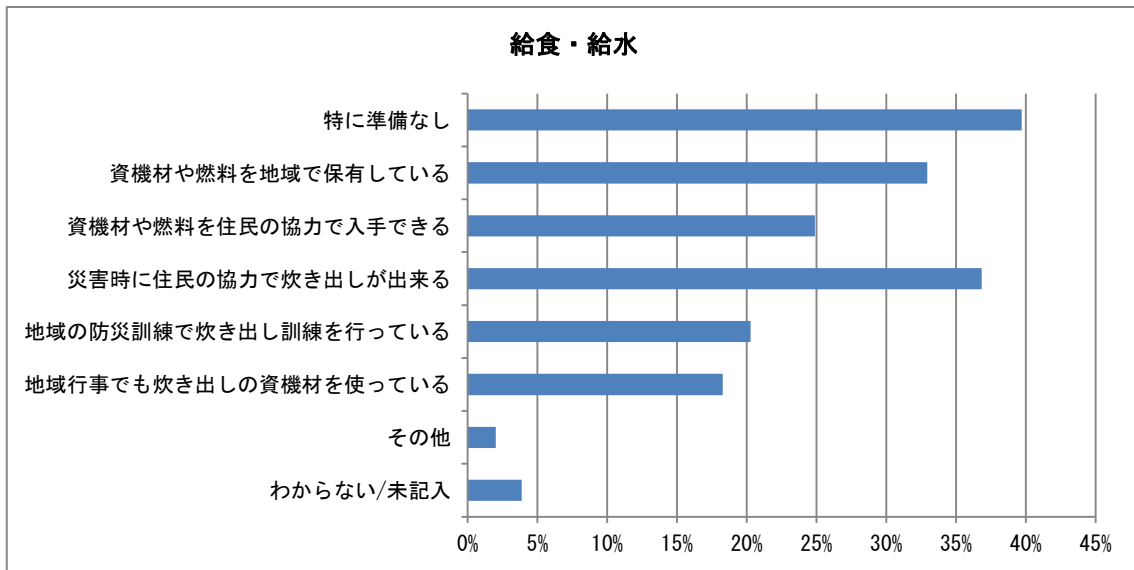
- 消火訓練と言うと防災訓練の定番のようであるが、実際に消火訓練を実施しているのは30%、消火器を適切に扱える人は全体の20%非常に低い。
- 消火は消防団に頼るといふ傾向が多く見て取れるが、初期消火とは別に考える必要がある。

問2 3. 災害時の食糧備蓄についてご回答ください。(いくつでも○印)



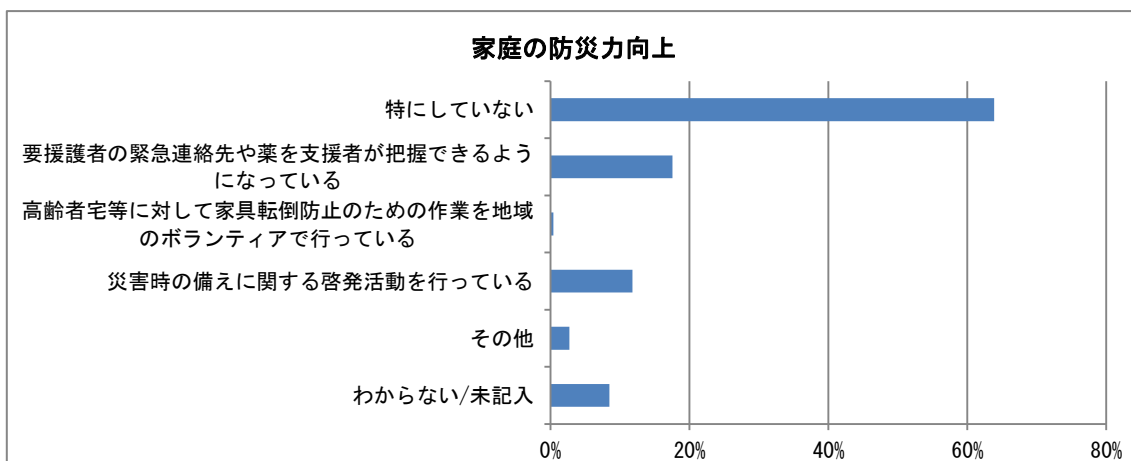
- 食糧備蓄については地域としては特に何も準備していない地域が圧倒的に多い上、各家庭に対しての啓発も行っているところは少なく、ほぼ自助に任せている状況であると言える。
- 支所地域では、災害時に住民の協力で水・食糧を調達できる割合が都市部に比べると高い。

問 2 4. 災害時の給食・給水についてご回答ください。(いくつでも○印)



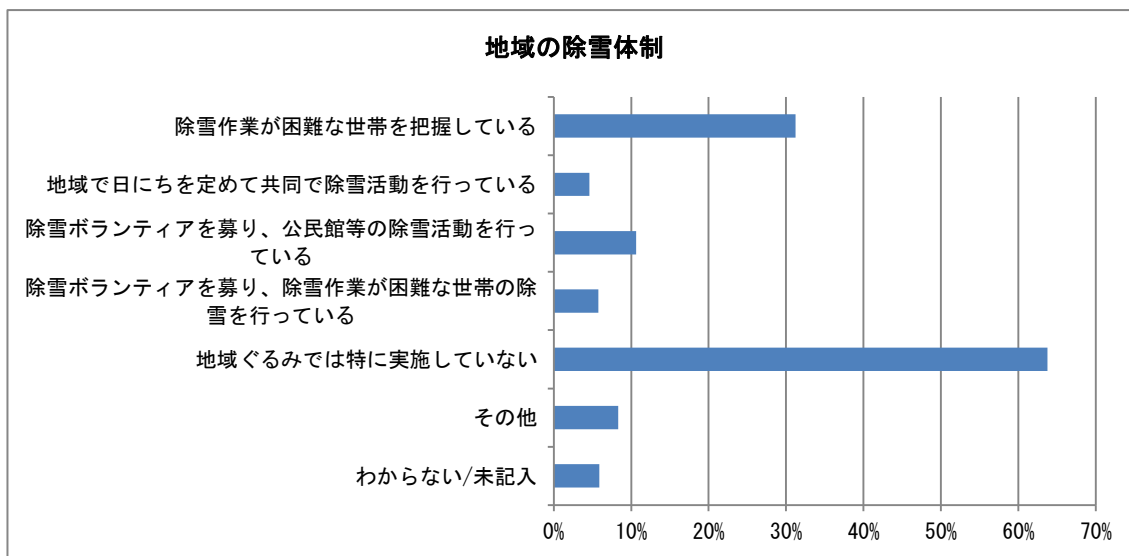
- 特に準備していない地域が約4割であるが、災害時に炊き出しが可能である地域も全体の約4割であり、特に支所地域でその傾向が強い。

問 2 5. 家庭の防災力向上のための取組についてご回答ください。(いくつでも○印)



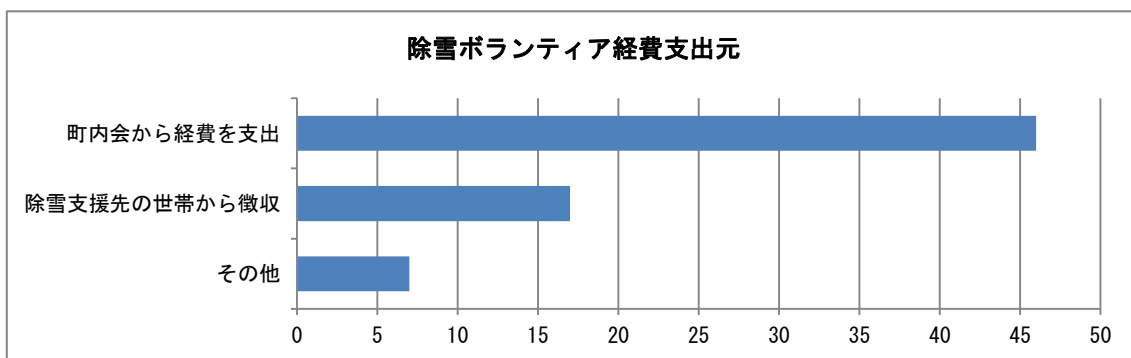
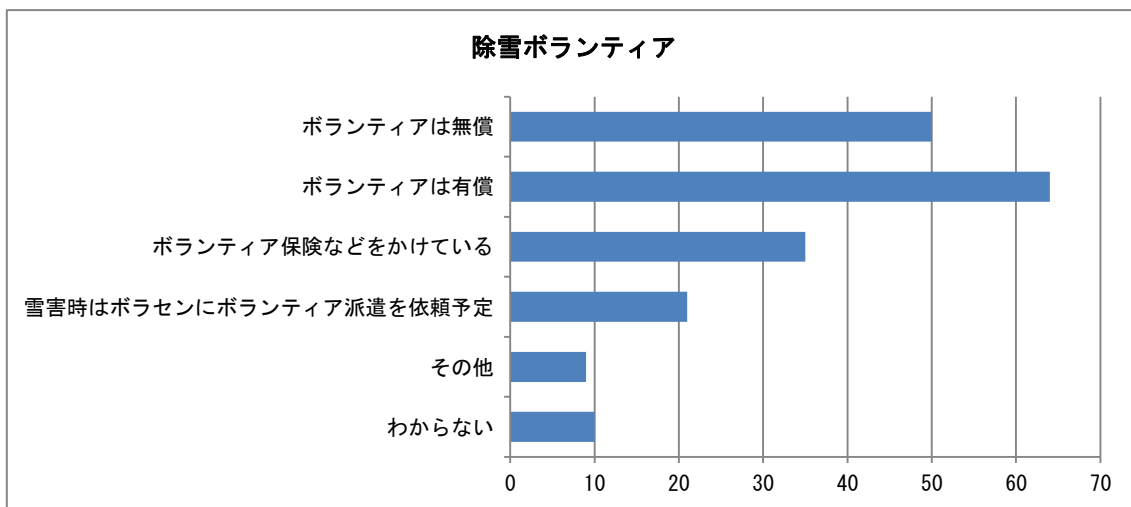
- 家庭の防災については、地域の60%が関与せず、ほとんどが各家庭の自助に任せている。
- 長岡市があんしん袋の設置を推進したためか、全体の約20%の地域で要援護者の緊急連絡先等を緊急時に支援者が把握できるようになっている。
- 自主防災会に対しても防災の基本は自助であることをもっと啓発する必要がある。

問 2 6. あなたの地域の除雪体制についてご回答ください。(いくつでも○印)



- 地域ぐるみの除雪は特にしていない地域が全体の約60%を占めている。しかしながら、町内会などでゴミ収集場所や公民館などの公共施設や高齢者宅の除雪を行っているところも少なくない。また、地域における除雪ボランティアの取り組みも雪の多い地域を中心に少なからず実施されている。
- 雪の多い地域を中心に、ある程度除雪作業が困難な世帯を把握している傾向がある。

問27. 除雪ボランティア活動を実施している地域の方にお聞きします(問26の3. もしくは4. に該当)。あなたの地域の除雪ボランティアについてご回答ください。(いくつでも○印)



- 除雪ボランティアは、無償で行っている地域よりも有償で行っている地域の方が若干多い。また、有償の場合は、除雪作業の内容にもよると考えられるが、個人宅からよりも町内会から経費を支出しているところが多い。
- 除雪ボランティアを実施している地域でもボランティア保険をかけていないなど、安全面の配慮の低さがうかがえる。
- 雪害時には災害ボランティアセンターに支援を依頼しようという地域も少なく、災害ボランティアセンターの存在をもっと知ってもらふ必要もある。

今回のアンケートは設問も多く、回答も様々なものが寄せられ、3月の事例発表会までに分析する事が困難であり、全体像の概要についての報告に留まるが、項目によっては皆さんからの回答をお知らせするだけでも「どうしよう」と思案されている所には参考になると思われる回答が沢山あります。紙面制約を考えながら、役立つQ&Aを選んでみました。

① 設問12 「あなたの地域の防災訓練について（特徴や位置づけを）回答ください」

- 防災を目的とした「地域フェスタ」を開催し、PRにつとめている
- 町内役員、防災役員の考えで防災訓練の内容を決める
- マシ排除のため、1年目は避難誘導、2年目は土嚢づくり等と工夫している
- 隣接町内と合同で実施・・・多くの地域で実施
- 消防分団単位で合同して訓練
- コミセン主催の地区合同防災訓練に参加
- 町内行事と併催
- 近隣の高齢者施設と町内とが合同で年2回の避難訓練を実施
- ☆以前はいろいろやったが、マシで中断している
- ☆毎年はできない

② 設問13 「あなたの地域ではどんな防災訓練を実施していますか？」

- 緊急連絡伝達訓練
- 避難訓練
- 要援護者を搬送する訓練
- 衛星携帯電話での交信訓練
- 避難所への集合と防災機器点検
- コミセン主催の合同避難訓練
- 安全士等による防災講話
- 防災関連の映像での啓発
- ロープワーク ●応急手当・心肺蘇生・AED・担架搬送 ●段ボールでの更衣室組立て
- 起震車体験 ●煙体験車
- 土嚢の作り方、使い方
- 柏崎原発見学 ●長岡消防の見学
- ☆訓練は未実施

③ 設問15 「あなたの防災会ではどんな防災資機材を所有していますか？」

- スロップ／のこぎり／ジャッキ／かけや／つるはし／バール／町内（町名）旗／委員用ジャケット

- 救急箱／ヘルメット／ハンドマイク／メガホン／椅子・テーブル／テント／エンジン発電機／照明機材／燃料缶
- カセットコンロ／ストーブ／ラジオ／防災ラジオ／ロウソク／誘導灯
- トランシーバー、／チェンソー／一輪車／車椅子／ロープ／脚立／二連はしご
- 折り畳みマット／アルミマット／毛布／寝袋／食器セット（100人分）
- トイレ用テント／ボックストイレ／簡易トイレ／マンホールトイレ
- 飲料水製造装置／飲料水保管用ポリタンク／小型ポンプ／水中ポンプ
- 切断機／エンジンカッター／草刈り機
- 7人乗りボート（寺泊地区）
- 除雪機（小国地区）
- 運搬機（栃尾地区）

④ 設問 17 「災害時の情報伝達について回答ください」

- 連絡網で対応
- 自主防災会役員 ⇄ 班長 ⇄ 個人
- 自主防災会役員 ⇄ 防災委員 ⇄ 班長 ⇄ 個人
- トランシーバーを使う／自主防災役員はトランシーバーを持つ
- FM屋外放送設備
- 簡易無線機 15台
- 緊急FMラジオを全戸配布
- 衛星電話
- ハンドマイクで町内を回る
- 班から2～3名が口頭ならびにチラシで全戸に伝達する
- 主に消防団が情報収集、伝達を担う

⑤ 設問 25 「家庭の防災力向上のための取組について回答ください」

- 町内で行う各種防災訓練を通じ、家庭での準備（自助）を啓発している
- 防災講話を定期的実施、その中で家庭の取組をPR
- 町内集会時に防災PR
- ラミネート加工した「非常持ち出し品リスト／家庭備蓄品／避難心得」を全戸配布
- 各家庭にまかせている
- 防災役員名簿の全戸配布
- 「防災ニュース」を定期的に発行している